



# 祖父母と生きたあの日々が、 今のわたしをつくっている。

おじいちゃんおばあちゃんと、ごはんを食べることが多かった。  
テーブルにヒジをついたら怒られたけど、それ以外は優しくかった。  
生まれたときから二世帯ぐらし。  
両親は共働きで平日はあまり家にいなかったけど、寂しい思いをしたことはなかった。  
おばあちゃんが先に亡くなり、おじいちゃんはどんどん弱っていった。  
ある日、おじいちゃんは、わたしをお母さんの名前で呼んだ。  
お母さんの若い頃だと思い込んでいた。わたしは泣いた。  
それから、おじいちゃんを家族で支える生活が始まった。  
手伝いたくて、母にお願いして、おじいちゃんの朝食はわたしが作った。  
おじいちゃんの天然ボケは、お笑いのボケとはぜんぜん違い、  
ときどき家族でほっこり笑えた。  
あいさつや礼儀、モノを大切にすること、生きるということ。  
祖父母から学んだことは、わたしの人生の糧であり、誇りであり、宝物だ。

二世帯ぐらし30年、今、笑っている。

考えよう。答はある。  
**ヘーベルハウス**

事実。二世帯で育った「孫の90%」が「祖父母とのくらしは満足だった」と答えています。

(旭化成ホームズ「30年暮らした家族による二世帯住宅の評価と住まい継承の姿」調査より)